

## 学校と社会教育推進委員会の協働的な取組について

社会教育推進委員会（社教推）は、従来、各地区の社会教育活動の企画・実施に関することが主たる所掌事務でしたが、社会教育法の改正を受けて、「地域と学校の連携・協働に関すること」が加わりました。各地区の社教推では、地域の特色を生かした地域学校協働活動が展開されています。今回のコミスクだよりでは、11月25日（土）に実施された常盤中学校と恩田地区社会教育推進委員会の取組事例を紹介します。

### 地域の良さや課題を学ぶ「ときわ学」（総合的な学習の時間）

### 常盤中学校

常盤中学校では、生徒と学校運営協議会（学運協）委員による熟議を重ね、学校づくり、地域貢献活動に取り組んできました。昨年度までは、活動が生徒会や部活動毎で一部の生徒にとどまる傾向が見られたので、今年度からは全校生徒へ拡げるために、総合的な学習の時間に「ときわ学」を設定し、宇部市の課題を見出し、地域貢献活動に繋げることにしました。講師は市の環境政策課やこども未来課、SDGs ワークス等の方々です。今年度の学びの分野は「環境」「スポーツ・運動」「防災・災害」「人権」「地産地消」です。

### 地域課題の解決に「ときわ学」での学びを提案

### 恩田地区社会教育推進委員会

恩田地区社会教育推進委員会では、常盤中学校の「ときわ学」の成果を是非とも、恩田地区社会教育研修会で発表してほしいということになりました。当日は、11名の生徒が「環境」「スポーツ・運動」「防災・災害」における「現状」を紹介した上で、「課題解決に向けて自分たちができること」更には、より良い解決に向けて「地域の皆さんに相談したいこと」という三部構成で提案しました。



### 提案を活動につなぐためのワールドカフェ方式による熟議

常盤中生徒の提案を受けて、参加者68名は9グループに分かれて、45分間のグループディスカッションに入りました。グループの構成員は、常盤中生徒、学運協委員、社教推委員の呼びかけに応じて参加希望した地域住民の皆さんです。山口大学大学院生11名もファシリテーターとして加わり、ワールドカフェ方式で常盤中生徒の提案がブラッシュアップされ、常盤中生徒の皆さんの提案は、恩田地区住民共有の課題となっていきました。「ときわ学」の学びは、12月には、連携校の恩田小学校、岬小学校との小中合同総合的な学習の時間発表会で、小学生とも共有することになっています。

